

国際社会科学評議会・国際哲学人文学会議共催名古屋国際科学シンポジウム
「持続可能な社会へのロードマップ」のお知らせ

国際社会科学評議会より、下記の周知依頼がありましたので、お知らせします。
標記会合は自然科学に関わるものとは言えないかもしれませんが、「国際的交流をはかり、
学術・分科の発展に寄与することを目的とする」本会の趣旨に合致すると考えられることから
ご案内する次第です。

(協会事務局)

記

原子衝突研究協会御中

国際社会科学評議会副会長
児玉克哉

拝啓 皆さまにおかれてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

小生は、三重大学にて社会学の教鞭をとる研究者です。
日本学術会議では特任連携会員を務めさせていただいています。
現在、ユネスコに本部を置く国際社会科学評議会 (ISSC) の副会長をしています。
この社会科学系の国際社会科学評議会と人文科学系の国際哲学・人文学会議 (CIPSH) が、
この12月13日14日に名古屋にて国際シンポジウムを開催します。世界の社会科学系、人文
科学系の国際会議の会長や事務局長など錚々たる面々が名古屋に集う機会となります。国際社会
科学評議会、国際哲学・人文学会議の総会を日本で開催するのは初めてであり、当然この2団体
が国際科学シンポジウムを持つのは初めてのこととなります。

昨年、国際社会科学評議会はノルウェーのベルゲンにて国際社会科学フォーラムを開催し、世界
から800名のトップクラスの研究者が集いました。しかし、日本からの参加はほとんどなく、
こうした分野での日本人研究者のネットワークとプレゼンスに危惧を抱きました。自然科学系の
会議では日本人研究者が存在感をみせますが、社会科学、人文科学分野ではまだ限られた発信し
かできていないように感じられます。

そこでお願いです。ぜひ多くの日本の研究者の方に参加していただき、今後の国際的なネットワー
クを築いていただけないかとお願いします。名古屋会議はなんとか誘致することができました。
成功に終わらせて、次の段階へのつなげたいと祈るような気持ちでいます。先生方のご協力を心
よりお願いいたします。予算的にも厳しい状態での開催になり、不安でいっぱいです。なにとぞ、
温かいご支援とご協力をお願いいたします。

なお、国際社会科学評議会・国際哲学人文学会議の国際シンポジウムについての情報及びISSC加盟
国際学会については、添付の資料をご参考ください。
また、日本学術会議の会長金澤様より、ご推薦を頂いております、ご参照頂ければ幸いです。

何卒、貴学会より2名でも3名でも参加者をお送り頂けると有り難く存じます。
また会員の方に呼びかけていただくと有り難く存じます。
勝手なお願いですが、何卒よろしくお願いいたします。

敬具

ISSC加盟国際学会リスト

- ・国際地理学連合（IGU）
 - ・国際生理科学連合（IUPS）
 - ・国際法学学会（IALS）
 - ・国際経済学協会（IEA）
 - ・国際社会科学団体連盟（IFSSO）
 - ・国際行政学学会（IIAS）
 - ・国際平和研究学会（IPRA）
 - ・国際政治学会（IPSA）
 - ・国際社会学会（ISA）
 - ・国際人類・民族科学連合（IUAES）
 - ・国際人口学研究連合（IUSSP）
 - ・社会科学研究所サイアティ（4S）
 - ・国際世論研究学会（WAPOR）
-

国際社会科学評議会（ISSC）・国際哲学人文学会議（CIPSH）共催

名古屋国際科学シンポジウム「持続可能な社会へのロードマップ」について

日本学術会議会長 金澤 一郎

このたび名古屋において、UNESCOに本部を置く2つの国際団体の共催の下に、「持続可能な社会へのロードマップ」と題する国際科学シンポジウムが開催される事になりました。共催の2つの国際団体は、社会科学系の国際的代表団体であります国際社会科学評議会（ISSC）と人文学・哲学系の国際的代表団体であります国際哲学人文学会議（CIPSH）であります。この両者の本部があるUNESCOでは、様々な意味での「持続可能性」を追求していることは改めて申すまでもなく、UNESCOのmission statementの中に、平和の構築、貧困の撲滅、教育を通じた異文化間の対話、などと共に、「持続可能な発展」がその使命の一つに位置づけられていることから理解できます。さらに日本からUNESCOへの提案によって、数年前から” Education for Sustainable Development(ESD) 持続的発展に向けた教育 ” が国連における世界的事業の一つとして進められていることもご存知のことと思います。

ところで、わが日本学術会議は、これまで多くの国際的な学術団体との共同活動を行ってまいりました。その中でも、国際科学会議（ICSU）と特に密接な関係を持っていますが、ICSUは主として自然科学系の国際学会の集合体であると考えられています。一方、日本学術会議は、生命科学、理学・工学などの自然科学系だけでなく、人文・社会科学系の科学者をも含む全領域の科学者をカバーする組織であり、その意味において、社会科学を中心としたISSCや哲学人文学を中心としたCIPSHとも、これまで以上に緊密で建設的な関係を築いて行く必要があると考えています。

本年12月初旬にそのISSCとCIPSHのそれぞれの総会が名古屋市において開催されますが、それに引き続いて12月13日と14日の2日間にわたって、先に述べました名古屋国際科学シンポジウム「持続可能な社会へのロードマップ」が愛知大学車道キャンパスコンベンションホールにおいて開催されます。このシンポジウムには関連する国際学会の会長等が多数参加の予定であり、日本の研究者にも開かれた形で開催されますので、多くの研究者にとって有意義な交流の場となるでしょう。

先に申しました「持続可能性の追求」は、自然科学の科学者のみでは成し遂げることは不可能であることは自明の理であります。生きた社会における人類の行動や考え方に基盤をおいた人文・社会科学系観点からの議論が欠くことができません。日本学術会議は、あらゆる領域の科学者の国際的な交流の推進に努めていますが、そのような意味からも多くの日本の科学者がこの国際科学シンポジウムに参加されることを期待しています。

以上